



日本医療福祉生活協同組合連合会

東日本大震災支援ニュース No.13

(2011年3月21日 17時現在)

被災地の医療福祉生協の状況

○郡山医療生協

理事長、専務理事、院長が、持ち家が使用不能状態で頑張っている5人の職員宅を訪問し、水や食品、ブルーシートやナイロン袋、見舞金を手渡し激励した。公立保育園児等を受け入れる拡大保育、就学時児童を受け入れる学童保育の継続。(3月20日)

3月18日にライフラインが復旧。3月21日に浜北医療生協と富山医療生協から送られた軽油をディーゼル車に給油し、小名浜生協病院(浜通り医療生協)に800リットルの水を搬送。(3月21日)

○浜通り医療生協

<断水続く…水は上水道から>

ライフラインのうち、電気・ガスは復旧しているが、水は依然断水、回復の見通しは不明。水は浄水場まで汲みにいって対応してきたが、雨が降ると原発事故の関係から取りに行くことはできない状況。はるな生協、みなと医療生協から送られた水で凌いできた。

<緊急で水の確保を>

水不足に対して①本日 3/21 郡山医療生協が水 2 リットル×400 本を、浜北医療生



協・富山医療生協からもらった軽油を使って緊急に運び込む②本日 3/21 福島中央市民医療生協が福島県生協連に緊急のお願いをしてコープふくしまに水とおむつを運んでいただいている。(3月21日、長谷部専務との電話メモ)

現場職員は特別シフトを敷いて、慢性疾患患者対応、入院患者対応にあたる。介護福祉部職員は、利用者の安否確認とショートステイ、高齢者住宅等利用者を病院通所に避難させサービス提供。事務職員は、水とガソリンの確保に全力投球。理事の手配で3トントラックと水タンクを確保、職員のタンク提供もあり、ピストン輸送。(3月21日、「応援ありがとうニュース」より抜粋)

○福島中央市民医療生協

医師1名、看護師3名、介護職10名、リハビリ職員4名で避難所訪問。診察コーナーを設置して対応。(3月20日)

3月22日より、地域の避難所に福島市医師会が医師派遣を開始。福島中央市民医療

からは4人の医師が協力。

浜通り医療生協へ紙おむつ500枚を送る。(3月21日)

○福島医療生協

医療生協わたり病院は3月14日から震災被災者や原発地域避難者のための被災者診療を始めています。南相馬市41名、浪江町17名、双葉町3名、富岡町6名、飯館村2名が来院。多くの方が、津波の被害を受けたり、原発地域からの強制避難を命じられたりした方々。

16日は、医師を含む3名がグループをつくり、避難所を訪問。17日は医師5名を含む10名が避難所を訪問。18日までに被災地から受診された方は150名を超えた。うち人工透析を行った方は28名。透析室は2クールから一部3クールに拡大して対応。通院困難な方も多く、家族の方は、臨時的対応として組合員ルームから通院することに。

福島消防本部に給水の要請を行い、10トンの提供を受ける。上水道が福島市での一部の地域から徐々に再開。

幼稚園や小学校休校のため、震災臨時保育「げんきの部屋」を開設。対象年齢は2歳半から小学6年生まで。期間は3月22日(火)から26日(土)。場所は、医療生協わたり病院通所リハビリセンター。(3月18日付「わたり病院大震災対策本部ニュース」第3号より抜粋)

組合員、職員が20日午前9時に対策本部前で意思統一後、避難所訪問、東高校への炊き出し、支援物資仕分けなど支援活動に取り組む。理事が歩いて組合員訪問したり、支援物資の荷降ろし・仕分け・荷積みを行ったり。副理事長がひとり暮らしの方に声を掛け、介護用オムツが足りないとの情報を得て、医療福祉生協に届いた支援物資の中からお届け。(3月20日付福島医療生協「東日本大震災対策ニュース」No.5より抜粋)

支援状況

○盛岡医療生協

小野寺理事長らが19日、岩手県大船渡市に到着。気仙医師会長代理の山浦先生宅を訪問し懇談。14時から、地図を頼りに地域ローラー訪問開始。子ども数人も風邪気味とのことで診察し、座薬、風邪薬など処方。51人の方から医療相談を受け、37人に処方した。PL顆粒12人、精神安定剤6人、降圧剤5人、鎮痛解熱剤5人、シップ5人など。(3月19日、小野寺けい子理事長被災地救援隊活動報告①)

翌20日、大船渡での活動は中止して陸前高田の実態をつかむため、小野寺理事長らが、陸前高田市入り。医療の手が届いていない少人数の避難所まわりを実施。スタッフで手分けして医療相談にのり、血圧測定、処方など行う。「こんな状況でも健康維持に気をつけることをお医者さんから話してほしい」という要望があり、急遽、伊藤医師が被災者への励ましも含め短時間の健康講話を実施。20日の医療健康相談89人、何らかの処方した人69人。処方の内訳はPL顆粒17人、抗不安薬18人、鎮痛解熱薬22人、降圧剤15人、シップ11人、便秘薬5人、気管支拡張吸入薬4人。(3月20日、小野寺けい子理事長被災地救援隊活動報告②)

○八戸医療生協



八戸市医師会の要請を受けて、医師1名、看護師1名が避難所訪問。(3月19日)

22日より、被害が多かった江陽、港方面を中心に組合員宅を訪問し「健康チェック」「相談活動」に取り組んでいく予定。訪問は毎日1チーム「看護師以外の職員+看護師=2名、または3名」で、午後の時間帯で2時間程度。

○会津医療生協

きたかた診療所に、薬をもとめる被災者が午前中だけで8名来院。若松方部の介護事業所で、全車両が会津若松市市民部発行の「災害派遣従事者緊急車両」の指定を受け、19日に指定のガソリンスタンドで給油。喜多方方部では、診療所の往診車が県の「緊急車両」の指定を受けたものの、福祉車両への証明書交付は難しい状況。(3月19日)

○東信医療生協

職員3名が19日から仙台市内の回復期リハビリテーション病院の病棟に配置。(3月20日東日本震災事務局通信)

○利根保健生協

医師1名、看護師1名、事務2名が前橋市産業技術センターにてトリアージ活動。(3月21日)

利根中央病院が、福島県いわき市かしま病院より栃木県新宇都宮医院に避難して来た透析患者2名より受け入れ要請があり、受け入れ。(3月21日)

○川崎医療生協 歌手で女優の一青窈さんから応援メッセージ (抜粋)

私は両親共に病院で亡くしました。父の時は幼すぎて覚えていないのですが、母が入院中には母長さんがカッカカッと気っ風良く笑う素敵な方でお見舞いに行くたびに笑顔と元気をもらいました。

きっとあのときの母が受けていたやさしさ、とか気持ちとか技術とか同じものを今、支援してくださってるみなさまが被災地のかたがたに与えて下さってるのだと思います。

本当にほんとうに心からありがとうございます。

いつか私も歌の炊き出しに行きたいと思っています。

そして、みなさまの元気になるような歌と気持ちを届けたいと思っています。

それまではこのような形でしか応援ができないのですが

少しでも力になるのであれば嬉しいです。

どうか頑張りすぎないほどにがんばって!!!ください。一青窈より

○南医療生協

支援物資を福島医療生協にむけて送る。(3月16日)

支援物資を新潟医療生協の要請で携帯カイロを送った。(3月16日)

福島医療生協より透析薬品等の要請あり、19日配送。(3月19日)

○富山医療生協

事務3名が福島県郡山市入り。(3月18日)

○浜北医療生協

灯油1,000リットルを福島県に輸送。(3月21日)

○大東四條畷保健生活協同組合

看護師1名を宮城県に派遣。(3月20日)

23日から2人目の看護師が出発。

○ろっこう医療生協

3月15日から16日に、福島県に専務理事ら事務2名を派遣。福島中央市民医療生協に、医薬品等の支援物資を届ける。(3月15日)

海外からのメッセージ

○韓国仁川平和医療生協



○被災生協が必要としている物資一覧を医療福祉生協連ホームページ内の会員支援サイトに掲載しています。

医療福祉生協連は義援金口座を開設しています。

義援金振込口座は次の3つです。

口座名義はすべて「日本医療福祉生活協同組合連合会」です。

- ①三菱東京UFJ銀行（0005）原宿支店（店番627）
普通預金 0041240
- ②みずほ銀行（0001）新宿中央支店（店番066）
普通預金 2911739
- ③郵便振替口座 00190-5-694665

寄せられた義援金は地方公共団体、公的機関等を通じて被災した地域への支援に使われます。

※生協で発行している震災関連ニュース等があればぜひお送りください。
下記の担当2人に同時にお送りいただければ幸いです。

※ニュース等で使われている写真を医療福祉生協連ホームページや comcom で使用させていただきます場合があります。ご了承ください

担当：江本・丸山

電話：03(4334)1580、FAX：03(4334)1585

メール：at_e@hew.coop（江本）

kj_m@hew.coop（丸山）